

AT-WDM02 リリースノート

この度は、AT-WDM02 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.1.0J

2 本バージョンで追加された機能


ファームウェアバージョン 1.0.0J から 1.1.0J へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「AT-WDM02 取扱説明書」(Rev.B) をご覧ください。

2.1 ループバックテスト機能

 61 ページ「ENABLE/DISABLE MODULE LOOPBACK」、62 ページ「ACTIVATE LOOPBACK」

本製品のリモートポートの接続の確認を可能にするループバックテスト機能に対応しました。

2.2 IP フィルター機能

 82 ページ「SHOW IP FILTER」、83 ページ「ADD/DELETE IP FILTER」、85 ページ「SET IP FILTER」、87 ページ「ENABLE/DISABLE IP FILTER」

本製品の各サービスに対するアクセスを IP によって許可/禁止する、IP フィルター機能に対応しました。PING、SNMP、TELNET、TFTP のサービスごとに、最大 8 エントリーまでのホストアドレス、またはネットワークアドレスを指定できます。

2.3 多段カスケードモード


 63 ページ「ENABLE/DISABLE CASCADE」

本製品を 2 対向 (4 台) 以上連続して接続することを可能にする多段カスケードモードに対応しました。デフォルトでは多段カスケードモードは無効に設定されています。

3 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 1.1.0J には、以下の制限事項があります。

3.1 ゲートウェイアドレスについて

 81 ページ「SET IP」

ゲートウェイアドレスを設定している状態で、SET IP GATEWAY=0.0.0.0 を実行した場合、SHOW IP コマンドの実行画面ではゲートウェイアドレスが Null に戻されたように表示されますが、実際には以前の設定を用いて通信を行います。ゲートウェイアドレスを Null に戻す場合は、SET IP GATEWAY コマンドを実行後、本製品を再起動してください。

3.2 Ping 実行中のコンソールのタイムアウトについて

 68 ページ「PING」、93 ページ「SET CONSOLE」

本製品から他のホストに対して Ping を連続して送信したまま、本製品のログインセッションのタイムアウト時間が経過した場合、ログインセッションが終了し、Ping の送信が中断されます。また、この場合、Ping の実行結果は本製品の履歴情報には追加されません。